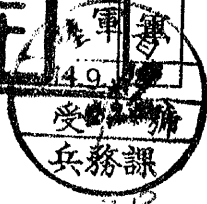
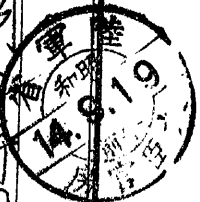


小本特報第六號
 軍人變死ニ關スル特別報告
 昭和十四年九月十日 第三十三師團長 小松原道太
 陸軍大臣 畑 俊六 殿
 首題ノ件陸軍報告規程第四條第三項
 依リ別紙ノ通報告ス



極秘

8300

軍人ノ變死ニ關スル特別報告

輜重兵第二十三聯隊

陸軍

一官等級氏名

昭和十三年徵集陸軍輜重兵一等兵

二所屬部隊

輜重兵第三聯隊第二中隊

三變死月日時

八月七日午後十時五分推定

四變死ノ場所

滿洲國興安北省濱洲線海拉爾驛西方二村

五變死ノ手段

鐵道自殺(滿洲里發—海拉爾行七次大號列車ニ飛込自殺ス)

六事素又ハ變死前後ニ於ケル參考事項

ハ高等小學校卒業後ハ幡製鐵所職ニトシテ稼働中

昭和十四年一月十日現役兵トシテ輜重兵第六聯隊第一

中隊ニ入隊同年四月廿六日聯重兵第三聯隊ニ轉属
五月九日熊本出發 五月廿六日 海拉爾到着現在ニ
至ル。

2、昭和十四年六月袖經衰弱症ニテ就業四日ノ後回復シメ
ル事事實アリシモ性快活ニシテ一度任務ヲ與フルヤ責任觀
念旺盛、積極的ニ事ヲ處理シ内務ノ履行確實諸勤
務ノ狀況モ亦良好ナリ

3、父母共ニ健在ニシテ父ハ農業(小作)ヲ營ミ本人ハ次男
兄弟九名ヲ有シ生活ハ下位ニ在リ

4、本人ハ煙草ヲ好ム酒ハ好マズ宗教ハ真宗ナリ

5、本人ハ官舎警戒兵トシテ服務由ニシテ今次ヲモンハシニ事
件ニハ參加セズ殘留中ノモノナリ

七 變死ノ原因

特ニ原因ト認ムル點ヲ發見シ得サルモ平素自己ノ病氣

陸軍

ヲ苦慮シ厭世心ヲ抱キアル折柄ヲ隅々八月五日十時頃
當時病臥中ノ山迫少尉ヨリ金四拾圓ノ振替送金ノ
依頼ヲ受ケ外出海拉爾郵便局ニ赴ク途中發作的
ニ精神異状ヲ來シ極度ニ世ノ中ヲ悲觀シ遂ニ鐵道自
殺ヲ決意セシモノト推定ス(遺書ニ依リ推定)

八、故意又ハ不可抗力ノ別

故意ト認メラル

九、既遂未遂ノ別

既遂

一〇、處置

ノ八月五日午後五時山迫少尉ノ電話報告ニ依リ留守隊
長輜重兵大尉 岡田安雄八直ニ上等兵一ヲ海拉爾軍
事郵便所及郵政局ニ派シ一方上等兵ヲ長トスル大名
ヲシテ市内料理店 飲食店、カ五一等ヲ搜索セシムルト

兵ニ下士官一ツ海拉爾憲兵分隊ニ出頭セシメ搜索取
押方ヲ依頼ス

2 八月六日前日ニ引續キ上等兵以下四名ヲシテ市内並海
拉爾驛附近ヲ又別ニ上等兵以下一名ヲ以テ海拉爾
西方陣地、松林附近一帯ヲ搜索セシメ夜ニ入りテハ上等
兵ヲ長トスルニ組ノ搜索隊ヲ市内外附近ニ派シ搜索
セシメタルモ發見ニ至ラス午後七時三十分頃中止ス

3、八月七日前日ニ引續キ搜索由午後七時三十分憲兵隊
ヨリ海拉爾驛西方線路内ニ轍死者アル旨電話通報ニ
接シ直ニ盛川軍曹ヲ現場ニ急行セシメ死體検査ノ
結果本人 XXXXXXXXXX 一等兵タル事實判明シ一方憲兵隊
ヨリノ通報ニ依リ出張ノ海拉爾第一陸軍病院軍醫中尉
高橋長矩ヲシテ死體検査ノ上死體ハ第一陸軍病
院ニ収容スルト兵ニ搜索ヲ取止ム

陸軍

一、責任者ノ處罰

中隊ハ初年兵ノ轉属直後殆ト全員ヲ喫子ケテ第一次
 ノモンハン事件ニ引續キ第二次ノモンハン事件ニ出勤
 留學中ニシテ轉属後詳細ナル身上調査ト個性ニ應スル
 訓育ヲ實施スヘキ時月ヲ有セザリシモ斯カル結果ヲ招來セ
 シハ誠ニ遺憾トスル所ナルヲ以テ中隊長ハ人事掛准尉教
 官等關係者ニ對シ嚴ニ將來ヲ戒メ中隊長及ニ對シテ
 ハ將來ノ教育指導ニ就キ一段注意ヲ喚起セシム

一ニ九七時本ノ所持金

九七時本ハ金錢ヲ所持セス（金入レ具發見セズ）
 然レトモ本人平素ノ行狀及當日ノ行動等ヲ調査スル
 ニ際シ其他ニ消費セル事莫クヲ認めス 教官山迫少
 尉ヨリ依頼ヲ受ケタル振替貯金（四拾圓）ハ途中紛失
 セルモノト四心料セシム

一三 其他必要ナル事項

一 死體檢案書別紙ノ如シ

二 本人ノ遺言寫別紙ノ如シ

三 自殺者發見現場要圖別紙ノ如シ

四 本人ノ日記中ニハ自己ノ病氣(腦病)ノ如シ(ヲ悲觀シ

タル記事散見セルヲ認ム

(以上)

死體檢案書

志學訂正



一、氏名

[Redacted name]

二、男女ノ別

男

三、出生ノ年月日

[Redacted birth date]

四、職業

陸軍輜重兵一等兵

五、病死自殺其他變死中毒ノ別

自殺

六、病名

縊死（鐵道）

七、死亡ノ年月日時

推定昭和十四年八月七日午後十時三十分

八、死亡ノ場所

滿洲國興安北省濱洲線海拉爾驛西方二杆地點

遺体檢案

右檢案候也

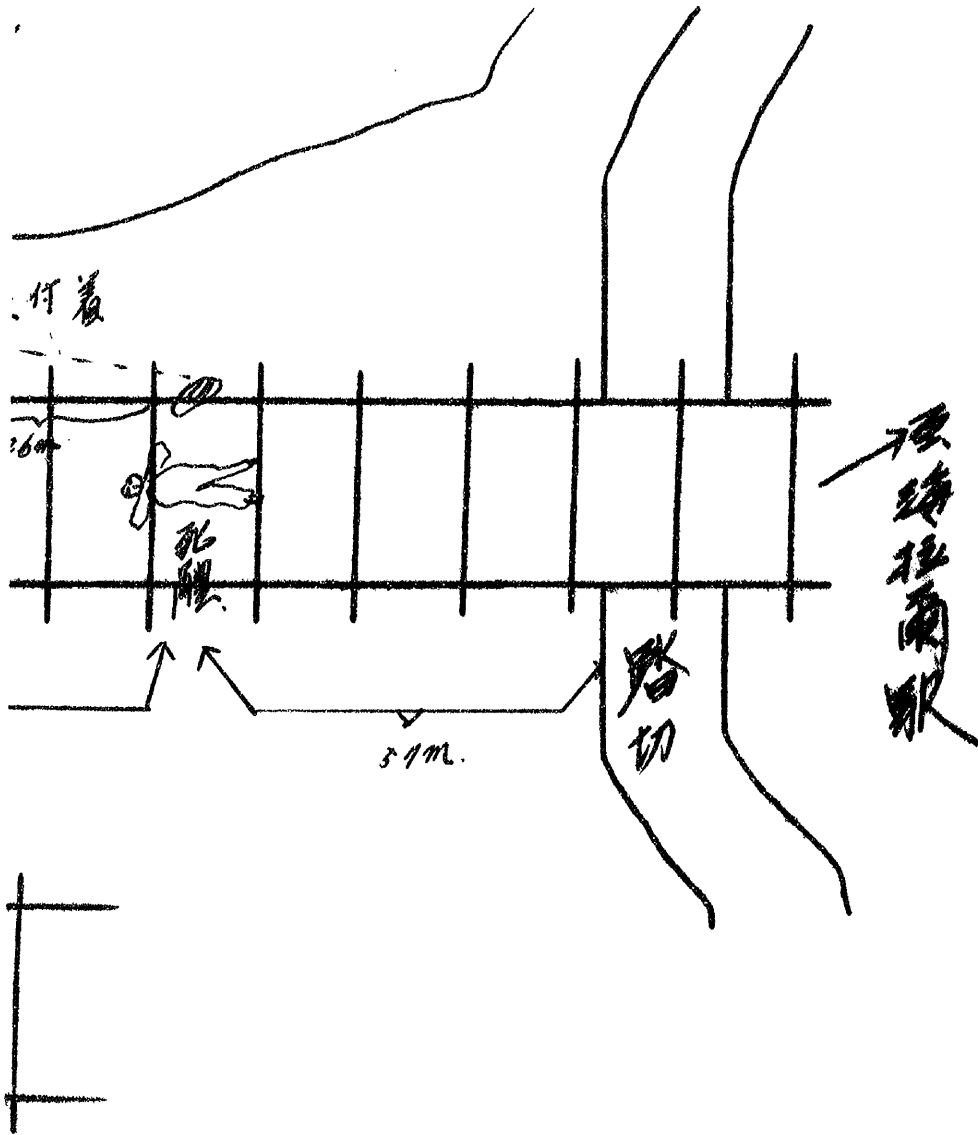
昭和十四年八月七日

海拉爾第一陸軍病院附 陸軍軍醫中尉 高橋長矩

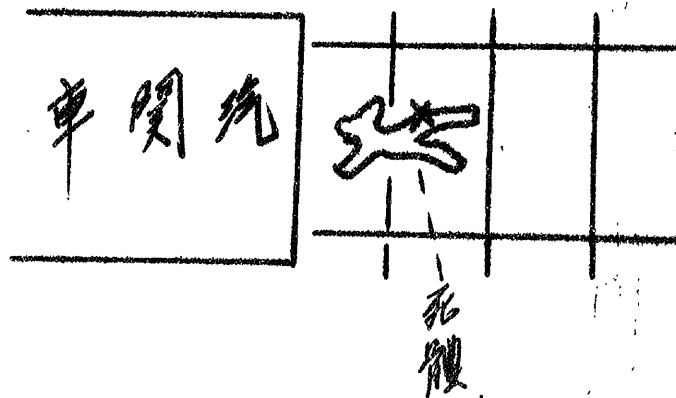
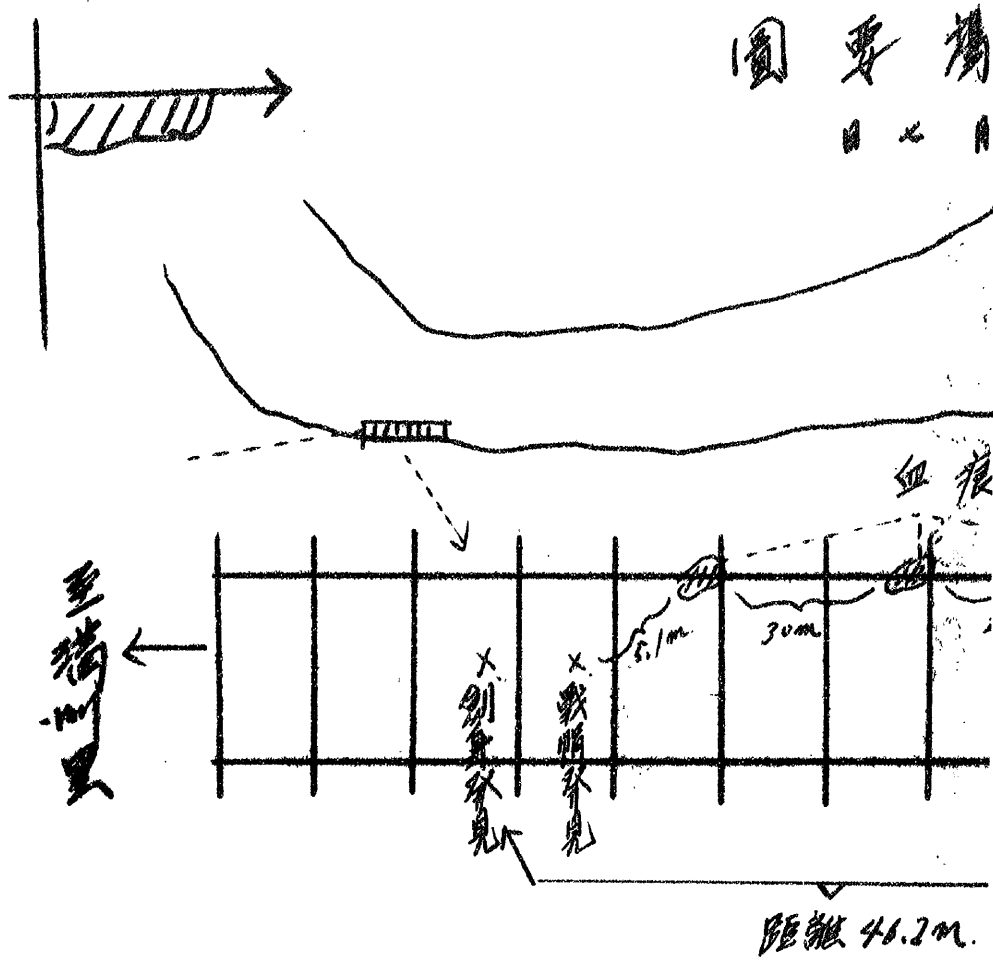
0044

0045

現者私養
八年四月和路



0046



(一) 遺書 寫シ

陸軍

不幸な子も持つ親に看まぬ

たまにあたるは本望だが自殺等は情けない

ものごよ海拉爾の園銅像前にて切腹したいが

もう由志兵もみはつてゐる事だろうかなしい

二今日も感心してみるに軍人として国家の為

に戦死に奉りてみるに戦に行く事さへ出来

得ずのたい一死とはいふかなしい

一人ごしい敵を正義の為にうちたいと田舎で

いたのにお来ないかなしい兄弟もいる事ぞし

あるし自分も今前も働いてくれるものと思

う天皇陛下下申譯がなしい

らつばを聞く度になじくなるこの部隊の
前原にこ

(四) 父兄弟も士ど力落じ。事なげくごあろう
 許こころまい不き平者。自分と二一並し
 兵及ぶつくれた出征。途につく時とあれまご
 はげましくくいたるに 田心之は流のみ自分か
 じこも将来に希望もなにもないはいせくごだ
 我が上を飛行機とぶしかない
 どうか戦友。武運正久と利る次第だ
 石田助教 高橋正上 兵に立乗は傳はら
 (五) 間病氣程つらいものが他にあるごあろうか病氣
 はく。一生まやたりに殺すに到る軍医にしんだ
 んじこいたたいたがわからない。だ 残念だ
 一同も相ごうたろう馬鹿なじとを必し自らは
 あまりにも馬鹿正直ごあ。事なま。せこご自軍
 の武運正久と利る

約谷良泉出

陸軍

一 緞着隊相馬隊長殿、申譯バナイ

一 自分は少いとも國に盡したいと相違う一念も一度も行
動に行き事が出まなかつた残念で堪らな

父母様にもなんとなんな事で死ぬる。は國心はなにござり
國ごとく想って然るう父母に遺恨迷惑心掛りざる

やう暮り御預ります

父母兄弟親戚。者に済しん

こゝで休養して死にます

遺書は
書きたき事は山々あります

が、おしく何れも書けな 八月より午後六時頃

一 自分は死を覚悟。前より、遂やうて来たこれ程非

国民がある。だううか自分は多し一賜済してくるじん

ご未だ、死度か一死、覚悟はきめて自殺しようかと

想つたが、入り道、おいはばかり送った

日本は前例に於て隊。が隊員が初めに殺に引一隊中
 無事かはない、振替は古物まされて之。盡な。た
 どうか国には之を健在である、まず政府請本。社
 大の五、遺書は

網谷英京

別紙 高台日記帳より寫

陸軍

八月十一日 土曜 晴 六時十五分起床

今日は教官殿上時頃起きる

かたくりたべられた晝。飯はよかつたが夜は宜敷

しなかつた水が喉がえさよめて感心さる事也

おかげで一書固いね 教官殿が病氣よてえんか及物

に氣をつけやう事を人々は周車軍延保に行無う

新張と言ひし行君に造物さいたさう 早花編書

書きた田上も来たたつた三枚づね 真いね 送るにこし

海拉爾はとこも高いろふな人にもか之ないさすよ、自かん

はやはり病しい一日を送る事いぬ、やはり腸痛

をさう困つた者を、日下く満期終つて病氣をよ

す事なぬ、頭。病氣け半週傳らしいだ

父が小生に時はやはり悪かつたさうだ、岩波文庫

の本を讀みたるに
 我とせり世を迷ふに
 已が志の上を遂げる日を待つ
 是れ一日も面を
 數之てみるま之
 古投に押すが
 事御深き清りたる
 天の御製

稻谷真泉